

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891900019		
法人名	株式会社 ふれあい今の庄		
事業所名	ふれあい大地 (わかば)		
所在地	福井県南条郡南越前町今庄77号11番1		
自己評価作成日	令和 元年 10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 元年 10月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今庄という歴史ある街と自然豊かな環境の中、地域住民との繋がりを大切にしている。宿の市、酒蔵ふえず、今庄町おこしのイベントやカラオケ教室の発表会鑑賞、地域の文化祭に出品し、出かけるなど、地域の行事に地域住民として参加し一緒に楽しんでいる。また、羽根曾踊りや日本舞踊やカラオケなどの慰問も多く交流を楽しんでいる。自然の恵みを活かした、ふき味噌やきやらぶき作り、ほうば飯等、季節の味わいを楽しんでいる。家族の方が新米を持って来て下さり、収穫祭も楽しんでいる。昨年までは、地域の方々の協力で納涼祭を開催していたが、今年の夏は、近くの旅行会社の協力で、スカイランタン見学を楽しんだ。また、今年より敬老会で家族の方々と共に祝いし、家族交流にも力を入れている。冬には、地域の方々に協力を頂き、餅つきとそば会を楽しんでいる。日常生活においても、地域一員として、回覧板を廻す等、家と同じになるような環境作り心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今庄宿本陣跡、多くの神社仏閣のある今庄宿場町の旧今庄小学校跡地に位置し、南越前町今庄地区住民を中心に、高齢者福祉の拠点として期待される開設10年目の事業所である。「普段着で生活できる空間。住み慣れた地域での、自分らしさを生かす」をキャッチフレーズに、一人ひとりの過ごし方、得意な事を把握し、家事や手作業、散歩などを取り入れ、生活に張り合いや喜びを持って過ごせるよう、チームで作る介護計画に反映し、日々支援している。認知症介護実践者研修やリーダー研修で職員が得た学びを年度研修計画立案に活かし、認知症対応型共同生活介護の力量を高めるために努力を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとり大事にしている事を出し合い、理念に基づいた事業所の目標(サブ理念)を職員全員で決めた。理念の実践目的にユニット内で更に月目標を決めてその実践に努めている。職員会議の時職員全員で唱和している。また迷った時は原点、理念にもどらうの声を常々かけ理念の実践に努めている。	事業所全体でサブ理念「笑顔で寄りそうケア」をつくり、月1回の職員会議で唱和している。ユニット毎で毎月目標を決めて努力している。	研修派遣が困難な状況であるが、工夫して年間研修計画を立て実施する等、支援の質向上に努めるとともに、理念を共有して実践につなげることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として区費を収め回覧板を共有している。一人で外出された方を見守り、一緒に戻って来て下さったりと協力が得られている。また地域の行事やイベントには、可能な限り出掛けしている。餅つき会やそば会等、慰問でふれあい大地に来て下さり交流を図っている。地域の祭りには、神輿の休憩所として参加交流している。	幼稚園児の散歩コースに組み込まれているほか、小学校の運動会見学に出かけたり、毎年1週間にわたる中学生の職場体験の受け入れ、年末ボランティアに中学剣道部が来訪するなど、幅広い世代との交流を日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時に、職員研修参加内容を報告している。運営推進会議の助言をもとに、認知症の人の理解や支援の方法を区回覧板を利用して情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同じ地区でも大地のことを知らない人がいる。回覧板で地域に知ってもらえるものよいのでは…の意見をもとに、区長さんの協力を頂き回覧板での情報発信へと繋がっている。	南越前町、今庄地区区長会長、地元区長、民生委員、家族が出席し、意見交換を活発に行っている。議事録を来訪者も閲覧できるようにしている。また、ヒヤリハット報告を毎回行い、意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入、退居状況や事故報告をしている。空きができた時には情報や助言をもらっている。多職種連携会議、地域密着型サービス運営会議に参加している。	町職員が運営推進会議に出席し、意見交換している。また、町の関係する会議に出席し、相談、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠解除から始め居室の移動探知機の撤去、各居室の窓ガラス止めを撤去した。又、職員会議で改めて言葉の拘束についても話し合いを設けている。	事業所および居室は施錠しておらず、身体拘束をしないケアの実践を行っている。また毎月の職員会議で「愛称で呼ばない」「丁寧な言葉使いを意識する」などを確認し、スピーチロック排除に取り組んでいる。	虐待防止の体制整備について職員全体で協議し、その結果を運営推進会議に報告して意見を求めることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が、虐待防止法について学んだ。虐待はあってはならないことと、全職員で認識している。また、毎月のユニット会議において周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が、更新研修時に学んだ。成年後見制度利用の方が1名おられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約及び解約や改定等の際は利用者や家族等に不安を与えないよう十分な説明を行い理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時やケアプランの説明の時に希望や意見の吸い上げに努めている。利用者や家族の声を大事に、必要に応じて苦情として取り上げ検討している。年1回家族アンケートを行い、意見を基に、今後の日々のケアに役立てている。	家族アンケートを実施し、半数の家族が回答している。本年度は猛暑のため夏祭りは中止し、家族交流会を兼ねて敬老会を実施した。手紙に広報誌、職員からの状況報告、本人の写真を添えて毎月送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回、代表者と職員が、一人ずつ現状の課題や問題点をヒアリングしている。意見や提案を聞く機会は、随時ある。例えば、特定処遇改善加算について8月の職員会議で説明している。	職員会議を月1回、ユニット毎のミーティング・カンファレンスを月1回開催し、意見を出し合い内容を検討している。意見交換は随時行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職の全国平均年収を超えられるように取り組んでいる。平成30年の勤続1年以上の平均年収は、3,371千円(通勤費除く)であった。認知症の資質向上と働きやすい職場に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修に1名参加させて頂いた。認知症に関する研修、感染症や災害時における看護や支援等の研修にも参加し、知識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の職員交流に、職員1名が参加した。 ネットワーク作りや情報交換などを行い相互間の向上に努めた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には家族やケアマネージャーからのあらゆる情報収集に努めている。また入居前には本人を訪ね、気がかりなことなどないか不安の軽減に努めている。また、入居後も不安なく過ごして頂けるようお願いの吸い上げに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはケアマネージャーからの情報収集はもちろん家族との面談を設け、気がかりなことや要望などの吸い上げに努めている。また入居後はカンファレンスに参加して頂き、要望などをケアプランに盛り込んでいる。面会時にはプランの説明をしながら思いの吸い上げ、意見を頂ながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時に、入院先の相談員に状況確認を行い入居を見合わせ、その旨を家族に伝え、一旦リハビリ目的で、他病院に転院して頂いた。 リハビリ達成し入居となったケースがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅生活の延長線上の暮らし方を目指しており、あくまでも自立支援での生活を重視している。入居者から学ぶことも多く、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通信にて情報交換や面会、行事、外出、通院などを本人・家族・職員とが協力しながら支え合い絆を維持していくよう努めている。またサービス内容について相談させてもらいながら一緒に本人らしい暮らしを支援していきましょうの姿勢に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた理美容室、馴染みのお店での買い物や、地域の人らとの交流が途切れないように支援に努めている。またホーム内でも馴染みの方同士の行き来を支援している。	今庄地区から5~6人の友人が気軽に来訪する等、馴染みの人との繋がりが有る。家族送迎で地区サロンに参加したり、携帯電話で家族と定期的に交信したり、馴染みの美容室へ出かけるなど、関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替えをして、話しやすく交流できるよう努めている。 お互いの部屋に行き来される方もおられ、その交流を見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は終了後のフォローや相談までは行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にその方の生活スタイルや希望を聞き生活に反映している。入居後は特に1対1の関わりの中、会話を通して思いの聞き出しに努めている。利用者同士の会話から本音が聞こえてくることもある。意思の疎通が困難な方は認知症専門職として言葉がなくても何気ない表情や反応をも大事にとらえる姿勢で取り組んでいる。	個別の支援計画には一人ひとりの希望、意向を把握して記入している。また生活の中で、本人が持っている力を十分発揮できるように支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族やケアマネージャーなどからのあらゆる情報収集に努めている。入居後は家族を交えたカンファレンスを行い、これまでの生活歴、好きだった事、昔していた事などお聞きし、予後予測も考えたうえでプラン作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時と定期的にあセスメントを行っている。またカンファレンスを行い一人ひとりの過ごし方や心身の状態、有する力の把握に努めている。特に重度の方はまだできる力を大事にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりにそれぞれ担当を設け、入居時と半年ごとにアセスメント、状態変化、3ヶ月ごとにカンファレンスを実施し、課題とケアのあり方について話し合い見直しをしている。カンファレンスには家族の参加も図っている。	利用者は担当制で、月1回の時間外ユニットミーティングにおいて利用者一人あたり30分かけてカンファレンスを行っている。計画作成担当者がまとめ、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり個別に日々のケアの実践を記録。サービス提供して今日はどうだったかを毎日チェックし見直しの情報にしている。新たな気づきや工夫してよかったことなどは、個人の記録は勿論業務日誌で申し送り、全職員で情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族での通院が困難な入居者の通院介助をしている。また、入居者の希望により理美容室の送迎も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の畑作りや納涼祭には、地域住民の協力を頂いている。また、歌や踊り、紙芝居、餅つきなどの慰問による交流を図っている。 地域の図書館利用を希望されている「ふれあいサロン」に家族送迎で参加されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を支援している。 また、家族の都合が悪い場合は、往診にて対応をお願いしている。日々の生活状況やバイタル結果をお手紙にし、生活上の留意点など助言を頂けるよう図っている。	今庄地区の利用者が多い。利用者は今庄診療所を在宅時から受診し、医師や看護師との関わりがある。夜間の緊急時を含めて心強いかかりつけ医となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の見守りにより異常を感じた際は、すぐに看護師に報告し、適切かつ迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病状は勿論、利用者が戸惑うことのないよう生活状況などをより具体的に報告している。混乱を予想される場合は、往診での対応を相談するなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の時に、医療行為はできないこと、予想されることや重度化となった時のことなど今後のあり方についての話を設けている。	看取りは行わないことが基本方針である。重度化した場合の意向を重要事項説明書で確認し合い、その内容を記入する項目を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受けている。急変時の対応については実際に急変があったことを機に、職員会議で職員全員でイメージトレーニングをし確認し合った。急変時の対応のマニュアルを見直した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間を想定に、消火、非難、通報訓練を実施している。運営推進会議での助言をもとに災害発生時、避難時などの協力依頼と避難場所としての大地の利用を回覧板で呼びかけている。また、職員一人一人火災発生を想定して初期消火までの訓練を行った。トイレ前、風呂場の暖簾を防災用にした。	昨年の町防災訓練は、事業所隣接の旧小学校跡地で行い、利用者・職員が総出で参加した。ハザードマップでは土砂災害区域に一部かかっていることを周知している。また、非常時3日間の備蓄はある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗などがあっても入居者の前で失礼になる言葉を発しないよう人格尊重について職員会議で話し合っている。また個人情報については職員からの質問があり、運営推進会議で議題にあげ助言を徹底している。風呂場に暖簾をとりつけた。	基本理念【尊厳 その人の人格を尊重して「その人らしさを支えます」】をふまえ、管理者は、排泄の失敗等があっても利用者の前で失礼になる言葉を発しないよう、職員会議で具体的に話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の洋服や飲み物など、日々の生活の中で可能な限り本人が自己決定できるよう選択の場に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休んでいたい時や、寛いでいたい時など無理強いないで本人の過ごし方、生活スタイルの尊重に努めている。また希望にて一人で自宅を見に行かれる利用者を見守りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理美容院に来てもらっている。可能な方は散髪・美容院を希望され職員の送迎で一人で出かけている。 日常生活の中で、整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮をむく、切る、盛り付け、味付け、炒める、洗い物など一人ひとりの好みや力をふまえて準備や片づけをしている。	利用者は、料理の下処理や盛り付け、後片付け、洗い物など一人ひとりが自ら取り組んでいる。近隣住民や農園を営む家族からの食材を利用している。現在昼と夕食の調理はシルバー人材センター職員が行い、朝食は職員が行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	どれくらいの量を食べられるのか本人、家族にお聞きしている。状態に応じて荒きざみ、きざみ、お粥、ペースト状など形のを工夫、トロミをつけたりしている。毎日食事摂取量、水分摂取量を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、口腔ケアをしている。一人ひとりの力に応じて声かけ、見守り、手渡し、介助している。週2回義歯の洗浄、週1回コップとブラシの洗浄をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみながらトイレの声かけや体調にもよるがなるべく布パンツにする取り組みをしている。見守り誘導にて夜間を含め可能な限りトイレでの気分のよい排泄をこころみている。また、声かけ、手渡し、手助け・トイレ内に専用のパッド入れを設けるなど一人一人の力に応じ自立にむけた支援に努めている。	排泄チェックシートに記入し、排泄パターンを把握している。現在布パンツが4～5人、紙パンツが6人、要介護5の利用者が1人オムツを使用している。他は布パンツにパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便の有無、量、形態など排便所状況をチェックし把握している。下剤服用の方もおられるが可能な限り下剤を使用せず排便を促せるようごぼう茶、きなこ牛乳の利用、腹部マッサージ、排便体操、腹圧、一緒にいきむ、水分摂取などに努めている。便秘が不快をもたらした様々な周辺症状の原因となることを認知症専門職として話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月～土の日中におこなっている。入った時はゆっくり入らせての希望があり、又ぬるめで長湯が好きなど一人ひとりの好みに応じて気分よく入って頂けるよう努めている。1人ひとりの都合に合わせて曜日をずらす等柔軟に対応している。	入浴は週2回が基本で、希望する日に入浴している。本人の要望により3回入る方もいる。個浴に自立で入浴が2人、機械浴利用は2人、他は一部介助で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の習慣のあるなしを確認している。睡眠具合を考慮したり表情などその時々で休まれることを図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェックシートで確認し確実な服薬と力に応じた服薬支援、症状変化の有無の確認に努めている。特に薬の変更時はその後の状態把握に努めている。一人ひとりの薬の内容や副作用などについて勉強会でとりあげて理解に努めている。また、薬局で薬のことを教えて頂くなど、薬の作用を職員間で確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの過ごし方、得意な事を把握し家事や手作業、散歩などを取り入れ、生活に張り合いや喜びを持って過ごせるよう支援している。いつでもコーヒーやココア、お茶など毎日楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩やドライブ、地区や学校の行事に出かけている。また理美容院、図書館、ズボンや下着を買いだめしたいとの要望にこたえ外出の支援をしている。また一人での自由な外出の支援も行っている。家の庭の草むしりがしたいと希望され、天気の良い日には、職員が同行し外出の支援をしている。	職員数の減少により以前より日常的な外出は少なくなっているが、事業所周辺の散歩や一人外出支援、理美容室・図書館・買い物支援など身近な外出を取り入れて、外出の機会を確保している。菊人形祭り・花ハス公園・花見にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在所持している方が一人おられ、お寺のお参りのお賽銭用に小銭を所持している。他の方は預かり金を管理し、希望時に買い物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もいらっしゃる。希望があれば、電話で会話が出来るよう支援している。年賀状や季節の便りなどの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、各居室にはブラインドがあり遮光、エアコンで適切な温度設定を行っている。季節の花を飾り月々の貼り絵を飾り、季節感のある空間に努めている。各居室には熱交換機が設置、廊下には冬は加湿器を置いている。エアコンが苦手な方もおられ扇風機で対応している。	山の緑を背景に、多くの赤とんぼが舞い飛びかう景色がホールの窓越しに季節を感じる。ホールの壁面には針仕事の得意な方が布で作成した作品が優しさを醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルの座席は決めてはいはいるが、その時々で気の合う方向同士が寛げるよう無理強いないようにしている。畳の場を設けた。気軽に座られ、家の居間の様な空間としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の思い出の写真を持ち込んで頂いている。戸惑われないよう馴染のあるもので本人様らしいお部屋作りを声かけしている。家の中で使い慣れたダンスを持ち込まれている方もおられる。	居室には家族の写真を飾り、一人ひとりの家族との繋がりが感じられる。思い出の手作り作品を馴染みの家具に置き、日当たりがよく居心地のよい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる力を考慮して、居室筆箆に下着やタオルなどの表示をしている。居室には家族同意のもと名前を掲げている。また状態に応じてベッド位置を見直し、より自立した生活の工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891900019		
法人名	株式会社 ふれあい今の庄		
事業所名	ふれあい大地 (もみじ)		
所在地	福井県南条郡南越前町今庄77号11番1		
自己評価作成日	令和 元年 10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 元年 10月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今庄という歴史ある街と自然豊かな環境の中、地域住民との繋がりを大切にしている。宿の市、酒蔵ふえず、今庄町おこしのイベントやカラオケ教室の発表会鑑賞、地域の文化祭に出品し、出かけるなど、地域の行事に地域住民として参加し一緒に楽しんでいる。また、羽根曾踊りや日本舞踊やカラオケなどの慰問も多く交流を楽しんでいる。自然の恵みを活かした、ふき味噌やきやらぶき作り、ほうば飯等、季節の味わいを楽しんでいる。家族の方が新米を持って来て下さり、収穫祭も楽しんでいる。昨年までは、地域の方々の協力で納涼祭を開催していたが、今年の夏は、近くの旅行会社の協力で、スカイランタン見学を楽しんだ。また、今年より敬老会で家族の方々と共に祝いし、家族交流にも力を入れている。冬には、地域の方々に協力を頂き、餅つきとそば会を楽しんでいる。日常生活においても、地域一員として、回覧板を廻す等、家と同じになるような環境作り心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

わかばと同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとり大事にしている事を出し合い、理念に基づいた事業所の目標(サブ理念)を職員全員で決めた。理念の実践目的にユニット内で更に月目標を決めてその実践に努めている。職員会議の時職員全員で唱和している。また迷った時は原点、理念にもどらうの声を常々かけ理念の実践に努めている。	わかばと同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として区費を収め回覧板を共有している。一人で外出された方を見守り、一緒に戻って来て下さったりと協力が得られている。また地域の行事やイベントには、可能な限り出掛けしている。餅つき会やそば会等、慰問でふれあい大地に来て下さり交流を図っている。地域の祭りには、神輿の休憩所として参加交流している。	わかばと同じ	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時に、職員研修参加内容を報告している。運営推進会議の助言をもとに、認知症の人の理解や支援の方法を区の回覧板を利用して情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同じ地区でも大地のことを知らない人がいる。回覧板で地域に知ってもらうのもよいのでは…の意見をもとに、区長さんの協力を頂き回覧板での情報発信へと繋がっている。	わかばと同じ	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入、退居状況や事故報告をしている。空きができた時には情報や助言をもらっている。多職種連携会議、地域密着型サービス運営会議に参加している。	わかばと同じ	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠解除から始め居室の移動探知機の撤去、各居室の窓ガラス止めを撤去した。又、職員会議で改めて言葉の拘束についても話し合いを設けている。	わかばと同じ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が、虐待防止法について学んだ。虐待はあってはならないことと、全職員で認識している。また、毎月のユニット会議において周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が、更新研修時に学んだ。成年後見制度利用の方が1名おられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約及び解約や改定等の際は利用者や家族等に不安を与えないよう十分な説明を行い理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時やケアプランの説明の時に希望や意見の吸い上げに努めている。利用者や家族の声を大事に、必要に応じて苦情として取り上げ検討している。年1回家族アンケートを行い、意見を基に、今後の日々のケアに役立てている。	わかばと同じ	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回、代表者と職員が、一人ずつ現状の課題や問題点をヒアリングしている。意見や提案を聞く機会は、随時ある。例えば、特定処遇改善加算について8月の職員会議で説明している。	わかばと同じ	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職の全国平均年収を超えられるように取り組んでいる。平成30年の勤続1年以上の平均年収は、3,371千円(通勤費除く)であった。認知症の資質向上と働きやすい職場に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修に1名参加させて頂いた。認知症に関する研修、感染症や災害時における看護や支援等の研修にも参加し、知識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の職員交流に、職員1名が参加した。 ネットワーク作りや情報交換などを行い相互間の向上に努めた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には家族やケアマネージャーからのあらゆる情報収集に努めている。また入居前には本人を訪ね、気がかりなことなどないか不安の軽減に努めている。また、入居後も不安なく過ごして頂けるようお願いの吸い上げに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはケアマネージャーからの情報収集はもちろん家族との面談を設け、気がかりなことや要望などの吸い上げに努めている。また入居後はカンファレンスに参加して頂き、要望などをケアプランに盛り込んでいる。面会時にはプランの説明をしながら思いの吸い上げ、意見を頂ながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時に、入院先の相談員に状況確認を行い入居を見合わせ、その旨を家族に伝え、一旦リハビリ目的で、他病院に転院して頂いた。 リハビリ達成し入居となったケースがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅生活の延長線上の暮らし方を目指しており、あくまでも自立支援での生活を重視している。入居者から学ぶことも多く、暮らしを共にする者同士の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通信にて情報交換や面会、行事、外出、通院などを本人・家族・職員とが協力しながら支え合い絆を維持していくよう努めている。またサービス内容について相談させてもらいながら一緒に本人らしい暮らしを支援していきましょうの姿勢に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた理美容室、馴染みのお店での買い物や、地域の人らとの交流が途切れないように支援に努めている。またホーム内でも馴染みの方向士の行き来を支援している。	わかばと同じ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替えをして、話しやすく交流できるよう努めている。 お互いの部屋に行き来される方もおられ、その交流を見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は終了後のフォローや相談までは行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にその方の生活スタイルや希望を聞き生活に反映している。入居後は特に1対1の関わりの中、会話を通して思いの聞き出しに努めている。利用者同士の会話から本音が聞こえてくることもある。意思の疎通が困難な方は認知症専門職として言葉がなくても何気ない表情や反応をも大事にとらえる姿勢で取り組んでいる。	わかばと同じ	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族やケアマネージャーなどからのあらゆる情報収集に努めている。入居後は家族を交えたカンファレンスを行い、これまでの生活歴、好きだった事、昔していた事などお聞きし、予後予測も考えたうえでプラン作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時と定期的にあセスメントを行っている。またカンファレンスを行い一人ひとりの過ごし方や心身の状態、有する力の把握に努めている。特に重度の方はまだできる力を大事にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりにそれぞれ担当を設け、入居時と半年ごとにアセスメント、状態変化、3ヶ月ごとにカンファレンスを実施し、課題とケアのあり方について話し合い見直しをしている。カンファレンスには家族の参加も図っている。	わかばと同じ	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり個別に日々のケアの実践を記録。サービス提供して今日はどうだったかを毎日チェック見直しの情報にしている。新たな気づきや工夫してよかったことなどは、個人の記録は勿論業務日誌で申し送り、全職員で情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族での通院が困難な入居者の通院介助をしている。また、入居者の希望により理美容室の送迎も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の畑作りや納涼祭には、地域住民の協力を頂いている。また、歌や踊り、紙芝居、餅つきなどの慰問による交流を図っている。 地域の図書館利用を希望されている「ふれあいサロン」に家族送迎で参加されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を支援している。 また、家族の都合が悪い場合は、往診にて対応をお願いしている。日々の生活状況やバイタル結果をお手紙にし、生活上の留意点など助言を頂けるよう図っている。	わかばと同じ	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の見守りにより異常を感じた際は、すぐに看護師に報告し、適切かつ迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病状は勿論、利用者が戸惑うことのないよう生活状況などをより具体的に報告している。混乱を予想される場合は、往診での対応を相談するなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の時に、医療行為はできないこと、予想されることや重度化となった時のことなど今後のあり方についての話を設けている。	わかばと同じ	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受けている。急変時の対応については実際に急変があったことを機に、職員会議で職員全員でイメージトレーニングをし確認し合った。急変時の対応のマニュアルを見直した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間を想定に、消火、非難、通報訓練を実施している。運営推進会議での助言をもとに災害発生時、避難時などの協力依頼と避難場所としての大地の利用を回覧板で呼びかけている。また、職員一人一人火災発生を想定して初期消火までの訓練を行った。トイレ前、風呂場の暖簾を防災用にした。	わかばと同じ	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗などがあっても入居者の前で失礼になる言葉を発しないよう人格尊重について職員会議で話し合っている。また個人情報については職員からの質問があり、運営推進会議で議題にあげ助言を徹底している。風呂場に暖簾をとりつけた。	わかばと同じ	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の洋服や飲み物など、日々の生活の中で可能な限り本人が自己決定できるよう選択の場に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休んでいたい時や、寛いでいたい時など無理強いしないで本人の過ごし方、生活スタイルの尊重に努めている。また希望にて一人で自宅を見に行かれる利用者を見守りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理美容院に来てもらっている。可能な方は散髪・美容院を希望され職員の送迎で一人で出かけている。日常生活の中で、整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮をむく、切る、盛り付け、味付け、炒める、洗い物など一人ひとりの好みや力をふまえて準備や片づけをしている。	わかばと同じ	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	どれくらいの量を食べられるのか本人、家族にお聞きしている。状態に応じて荒きざみ、きざみ、お粥、ペースト状など形の工夫、トロミをつけたりしている。毎日食事摂取量、水分摂取量を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、口腔ケアをしている。一人ひとりの力に応じて声かけ、見守り、手渡し、介助している。週2回義歯の洗浄、週1回コップとブラシの洗浄をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみながらトイレの声かけや体調にもよるがなるべく布パンツにする取り組みをしている。見守り誘導にて夜間を含め可能な限りトイレでの気分のよい排泄をこころみている。また、声かけ、手渡し、手助け・トイレ内に専用のパッド入れを設けるなど一人一人の力に応じ自立にむけた支援に努めている。	わかばと同じ	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便の有無、量、形態など排便所状況をチェックし把握している。下剤服用の方もおられるが可能な限り下剤を使用せず排便を促せるようごぼう茶、きなこ牛乳の利用、腹部マッサージ、排便体操、腹圧、一緒にいきむ、水分摂取などに努めている。便秘が不快をもたらす様々な周辺症状の原因となることを認知症専門職として話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月～土の日中におこなっている。入った時はゆっくり入らせて・の希望があり、又ぬるめで長湯が好きなど一人ひとりの好みに応じて気分よく入って頂けるよう努めている。1人ひとりの都合に合わせて曜日をずらす等柔軟に対応している。	わかばと同じ	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の習慣のあるなしを確認している。睡眠具合を考慮したり表情などその時々で休まれることを図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェックシートで確認し確実な服薬と力に応じた服薬支援、症状変化の有無の確認に努めている。特に薬の変更時はその後の状態把握に努めている。一人ひとりの薬の内容や副作用などについて勉強会でとりあげて理解に努めている。また、薬局で薬のことを教えて頂くなど、薬の作用を職員間で確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの過ごし方、得意な事を把握し家事や手作業、散歩などを取り入れ、生活に張り合いや喜びを持って過ごせるよう支援している。いつでもコーヒーやココア、お茶など毎日楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩やドライブ、地区や学校の行事に出かけている。また理美容院、図書館、ズボンや下着を買いだめしたいとの要望にこたえ外出の支援をしている。また一人での自由な外出の支援も行っている。家の庭の草むしりがしたいと希望され、天気の良い日には、職員が同行し外出の支援をしている。	わかばと同じ	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在所持している方が一人おられ、お寺のお参りのお賽銭用に小銭を所持している。他の方は預かり金を管理し、希望時に買い物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もいらっしゃる。希望があれば、電話で会話ができるよう支援している。年賀状や季節の便りなどの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、各居室にはブラインドがあり遮光、エアコンで適切な温度設定を行っている。季節の花を飾り月々の貼り絵を飾り、季節感のある空間に努めている。各居室には熱交換機が設置、廊下には冬は加湿器を置いている。エアコンが苦手な方もおられ扇風機で対応している。	わかばと同じ	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルの座席は決めてはいはいるが、その時々で気の合う方向同士が寛げるよう無理強いないようにしている。畳の場を設けた。気軽に座られ、家の居間の様な空間としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の思い出の写真を持ち込んで頂いている。戸惑われないよう馴染のあるもので本人様らしいお部屋作りを声かけしている。家の中で使い慣れたタンスを持ち込まれている方もおられる。	わかばと同じ	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる力を考慮して、居室筆筈に下着やタオルなどの表示をしている。居室には家族同意のもと名前を掲げている。また状態に応じてベッド位置を見直し、より自立した生活の工夫をしている。		